

# 一本の柱にも

学園長 禿 了 涅

# 一本のストローから

会長 渡邊 友子

同窓会の皆さん、元気でご活躍のことだと思います。私も周りの皆さんに支えられて一日一日を喜んでいます。

日本も平成天皇が退位されて令和の時代が始まりました。令和は日本が誇る古典、万葉集にある言葉で、国民一人一人がそれぞれの特性を發揮して

爽やかで和やかな社会をつくるという意味だと聞きました。それは本学の「六和」の精神にも通じる素晴らしい意味です。しかし現実は毎日、生きる意味を失つて命を粗末に捨てるような闇いニュースが続いて、どんな社会になつてゆくのか心配です。

先般、私はある話に出会いました。

それは明治16年、浄土真宗東本願寺の御堂が焼失し、再建のために門徒の若い人達が命がけで尽くした話です。新潟県上越の尾神嶽で御堂の柱に献上する大木を切り出す冬のこと。千人を超す人々を雪なだれが襲い27人が亡くなりました。そのうち20人は16歳以下の若者でした。「報尽為期」と刻まれた追悼の碑が建てられました。「報尽を期と為す」とは、仏法の御恩報謝のために力を尽くす生き方が人生の最高の生き方である。若者たちは短い一生であつたが最高の生

き方をして淨土往生を遂げた立派な一生(期)だった。残つた我われもそれを手本として立派に生きたい、という思いをこめた言葉のようです。私は深い感銘を受けました。現存の立派な御堂の一本一本の柱には、そういう献身の支えがあるので。

それは御堂の柱だけの話ではありません。すべての存在はそういう支えの背景を持っています。私がいまここに生きているということも、限りない支えの重なりによつて生かされる有り難い、尊いのちなのです。毎朝唱えてきた「今日一日の慎み」の四つの恩も、いのちのつながりの深さ、広さ、重さ、尊さを確かめるためのものです。

同窓の皆さん、「ありがとう」「おかげさま」という生き方で、和やかで生き生きとした令和の日本を育てましょう。幸福度日本一の福井県づくりに本学園は大きく貢献しています。

本当に身近で深刻な問題になつています。海外では、フランス(2015年パリ協定)が2016年からレジ袋を紙袋に、世界の企業、300社余りが使い捨てプラスチックを廃止して紙等の食器や容器に変えてきています。

今年も猛暑の日が続いていますが、皆様お元気でお過ごしください?

6月28日(金)、29日(土)大阪市国際見本市会場にて「持続可能な地球をめざして」初めてのG20サミットが開催されます。先立つて、6月15日(土)・16日(日)軽井沢にて「成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する」関係閣僚会合が開催されました。特にその中で「プラスチックゴミ問題対策」として海洋プラスチックゴミ問題を取り組む重要性を取り上げています。

国内では、「びわ湖ゴミ回収大作戦」にて、大量のペットボトル、レジ袋、家電部品、発砲スチロールで堆積汚染されているとの報告があります。そして、奈良の鹿の胃の中にはビニール袋等の固まりが入つて消化されずに死に至つてゐるといいます。

本当に身近で深刻な問題になつています。

福井でも同窓生である福井大麦俱楽部の重久弘美さん(旧姓 松嶋、昭和59年度児童教育学科卒業)も2010年の創業当時から麦茶を購入した記念品として大麦ストローを配布していたところ、今では企業が注目して需要拡大している様です。

これから私達もプラスチック問題に

スウェーデンでは、昨年8月グレタ・トゥンベリさんが15歳の時、議会前で一人で座り込み「気候への危機的な状況の対策」を訴えました。たつた一人で始めた行動が多くの方たちに共感をよび世界

的に抗議を行うストライキ運動に波及したのです。

未来を生きる若者たちが世界を動かしている今、世界の企業の決断が大きく変わっています。私達は、日常生活の中でプラスチック問題をどう考えて行くのか深く問われています。

特に身近な一本のストローを変えることで少しでも環境改善にと各企業は世界中でプラスチックを他の物に変え始めました。

若者達も世界中で問題解決に立ち上がりっています。例えば、オランダ人の24歳のボイян・スラットさんは、NPOオーシャンクリンアップという会社を設立

(17歳)して、世界の海からプラスチックを取り組んでいます。

これから私達もプラスチック問題に傾倒して行けたらと思います。小さい事からでも行動することが環境改善への第一歩になればと、一本のストローから一人ひとりが始まらよう、プラスチックゴミ減量への努力を…



# ～令和元年度～六和会総会開催のご案内

今年の総会は、仁愛女子短期大学にて開催します。昼食会の後、幼稚教育学科准教授の香月 拓先生による公開講座の聴講を予定しております。皆様、お誘い合わせの上、ご出席くださいますようご案内します。

## 「人生は楽しいもの？苦しいもの？ ーお釈迦様のことばに学ぶー」

「『人生樂ありや苦もあるさ』という歌があるように、私たちの人生には樂と苦の両方があり、苦しさがあつてはじめて樂しさを感じることができる」と、このように考えている人が多いのではないか？

今回の講座で、お釈迦様は樂しさ、苦しさについてどのように説かれているのか、一緒に考えていきたいと思います。

- 講 師／幼稚教育学科 准教授 香月 拓
- 会 場／仁愛女子短期大学 C421 講義室
- 持ち物／自分自身と向き合う気持ち

令和元年9月18日(水)

## ■ 内容 会場

- 11時30分 総会
- 12時 届食会（お弁当をご用意します）
- 14時 幼児教育学科 香月 拓 准教授による公開講座（本学では「人間と仏教Ⅰ・Ⅱ」をご担当）

## ■ 参加費 申込締切

FAX(0776-56-2922)で  
お申し込みください。  
同封のハガキにて郵送または

1,000円（お弁当として当日会場にて承ります）

仁愛女子短期大学

令和元年10月5日(土)

## ■ 開催日 会場



## 関西支部同窓会のご報告

● 関西支部長

この会場は、第2回卒業生で大坂在住の宮永さんが提案し計画しましたが、いつもの同窓会会費では無理ということになり、渡邊会長にご相談させていただいたところ、会長と本部の多大なるご協力をいただき、また、「長楽館」オーナーの土手素子様が快くお受けいただいた結果、この会場での開催が実現しました。

平成30年度の関西支部同窓会は、11月17日(土)に京都八坂円山公園の側にある「長楽館」にて開催されました。この「長楽館」は、明治時代の煙草王 村井吉兵衛の別邸跡で、香月 拓 准教授による公開講座（本学では「人間と仏教Ⅰ・Ⅱ」をご担当）

110年以上の歴史があり、当時は日英・米の著名なVIPが数多く滞在し、京都の迎賓館として華やかなできました。

当時は、禿正宣学長先生と島田貢明副学長先生にもご出席いただきました。同窓会では、短大の近況報告や豪華な食事とともに、楽しい時間をお過ごさせていただきました。会の途中には、会長をはじめ本部役員の方々から提供された賞品をゲットできるお楽しみの抽選会もあり、大いに盛り上がりました。参加者30名がそれぞれ素敵なお品を手に大変喜んでいただきました。参加者の皆さんは、いろいろなお話に花が咲き、時間が経つのも忘れ楽しまれていました。

関西地区には、大勢の卒業生がいらっしゃるので、是非とも多くの参加をお待ちしております。あわせて、皆様からの関西支部に対するご提案もいただけたらと存じます。今後とも、楽しい会が開催できますようご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

ピチはチャンス

昭和54年度 音楽学科卒業 金田 和子（旧姓：山村）

●突然の出来事でした。仁愛短大と仁愛大学に40年間教員としてお世話をなった夫・明彦が2017年2月に急逝。64歳でした。

気持ちの整理がつかないまま訪れた仁愛大学の研究室で、グラフィックデザインの仕事をまとめた資料を見つけました。深夜まで格闘していた夫の姿が浮かびこの作品を多くの人に見ていただきたいと思い至ったのです。

昨年3月の回顧展は、忘れられない5日間となりました。連日多くの方がみえ、「金田研究室に

居るみたい」とのうれしい言葉も頂きました。

「ピチはチャンス。」よく夫が唱えていた言葉です。この2年半、私は半ば呪文のように口にすること、前を向いてやつてこられたような気がしています。

今も月命日に訪ねてくださる方がいて、コミュニケーションで人は元気になれるということに気が付かされる日々です。夫はいつも学生さんに囲まれて幸せな人生であったと思います。お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。



▲3月の回顧展をフォトブックとして1冊にまとめました。ご希望の方はお知らせください。

tel.090-2038-6682（金田）